

千鳥駅東口のロータリー整備 設計に着手!

古賀市長

田辺かずき 市政報告

オール古賀を実践!
まちづくり推進中!

県市通算第64号
(市政第10号)

2022年7月発行

<田辺かずき事務所>

- challenge@tanabe-kazuki.jp
- http://www.tanabe-kazuki.jp/
- https://ameblo.jp/tanabe-kazuki/

Facebook, Twitter, Instagramも

【裏面もあります!】

- 燃料・物価高騰対策
- こがたからほこ開始

古賀駅周辺活性化も新段階 古賀グリーンパーク周辺を開発へ

JR千鳥駅東口のアクセス機能を強化するためのロータリー整備に着手しました。今年度は詳細設計を進めています。

千鳥駅東口の開発は地元の方々が要望されてきたもので、県議時代からお聞きしてまいりました。千鳥・舞の里地域を中心に住宅街が広がり、千鳥小学校、古賀北中学校、玄界高校、古賀特別支援学校なども立地しています。駅へのアクセス性の強化や安全性の向上の観点から、市

長就任後に実現に向けて行動し、国土交通省への要望なども経て予算措置が実現しました。市民の皆さんの利便性が高まることに加え、定住人口の増加につながることも期待されます。確実に事業を進めていきます。

中心市街地のにぎわい創出に向けて、JR古賀駅周辺活性化も新たな段階に入りました。東口エリアは道路や駅前広場、公園などの整備方針を取りまとめ、基本計画を昨年度に策定しており、今年度、基本設計に入ります。魅力的な空間をつくるため、市民の皆さんのご意見をデザインなどに反映させていくワークシヨップもスタートしました。

西口エリアの商店街では、地元の方手事業者さんたちがまちづくり団体として「株式会社4WD(ヨンダブルディー)」を立ち上げました。今の時代の価値観を捉え、このエリアの持続可能性を高めていく。今年度、空き店舗をテナントミックス型の交流施設に改装します。全国

数少ない事例として国の事業採択も受けました。

産業力をさらに強化するため、土地利用転換による企業誘致も進めています。直近では、古賀グリーンパーク(GP)に隣接する

筑紫野古賀線沿いの「釜田地区」(約6・8ha)の開発に向けて、地区計画を設定する手続きをスタート。

都市計画審議会などを経て年度内の決定告示をめざします。この地区はビエトロ

さまの新工場建設が決まり、2025年の開業が予定されています。レストランや

工場見学などの機能も検討されており、古賀GPとその周辺の観光・物産・情報発信機能の強化が期待されます。

工業団地の20年ぶりの拡張に向けて動き出している「今在家地区」、物流機能を強化する「大内田地区」

など、私の市長就任後、古賀市は産業力強化による持続可能なまちづくりを積極的に進めています。交通結

節点の「地の利」を生かした適正な土地利用と企業誘

致の推進は、私の最重要公約のひとつ。引き続き、福岡県、地元吉田健一朗県議と連携して取り組んでいきます。

まちづくりの 対話集会を開催

都市イメージは「ひと育つこが育つ」。今年度から10年間のまちづくりの指針である第5次総合計画の完成報告会を開催しました。

多くの皆さんにご参加いただき、意見交換ではどんな人手があがり、前向きなご評価も多くあり、ありがたき思います。これからの対話と交流の機会を積極的につくっていきます。



「スイーツコーン」を収穫

古賀のスイーツコーンは朝どりで新鮮!糖度がメロにも匹敵するという甘くて美味しい逸品です。6月

26日の早朝、古賀市谷山の畑で同世代の若手農家の皆さんと一緒にスイーツコーンを収穫しました。



紙ベースの報告書ではまちづくりのすべてを伝えることはできません。私のFacebookやTwitter、Instagram、LINEといったSNS、ブログ、古賀市HPなどでは、連日、様々な市政の動きを発信していますので、これらをフォローし、チェックしていただけると幸いです。こちらの二次元バーコードからもご覧いただけます。

こちらの二次元バーコードからもご覧いただけます



小中学校などに給食費補助 妊産婦や飲食店利用者の移動支援も

私から市議会に提案していた燃料費・物価の高騰に対応するための事業者や市民生活の支援策を盛り込んだ補正予算が成立しました。古賀市は九州自動車道の古賀ICがあるなど「交通の要衝」として広域的な物流機能が集積しており、福岡県経済を支える観点からも、トラック、タクシー、介護タクシー、貸し切りバス、自動車運転代行の事業者を支援します。

さらに、妊産婦や、今秋実施するキャッシュレス商品券の飲食店での利用者にタクシーチケットを独自に交付します。妊産婦は1人当たり2万円分（1枚500円×40枚）、飲食店利用者は利用額2000円ごとに1枚。タクシーの利用促進を図るための事業者支援として実施します。

あわせて、物価高騰も踏まえ、市の無料職業紹介所を介して新たに市民を雇用した事業者に正規雇

用1人当たり20万円など奨励金を支給します。

物価高騰に直面する子育て世帯への経済的支援として、給食費の値上げ抑制のため、小中学校や保育園などに前年度と本年度の給食材料費の差額分を補助します。このほか、低所得の子育て世帯への1人当たり5万円給付、住民税非課税世帯等への1世帯当たり10万円給付の経済的支援も実施します。引き続き社会情勢の変化を捉え、必要な対策を検討、実施してまいります。

すべての赤ちゃんに「こがたからばこ」スタート！

すべての子どもは社会の宝。古賀市は今年度から妊産・出産・乳幼児期までの切れ目のない支援を強化し、フィンランドの育児支援パッケージ「ベビーボックス」に



古賀市で初のベビーボックス
第1号の赤ちゃん

着想を得た「うまれてきてくれてありがとうBOX」がたからばこ」を始めました。専門職が乳児家庭を全戸訪問する際、赤ちゃん用品を詰め合わせたセットを贈り、社会全体からの祝福を伝え、その後の子育てにおける様々な具体的な支援策につなげていきます。古賀産農産物を直売する「コスモス広場」の商品券も同封しており、地産地消を促進します。毎日新聞や西日本新聞が報道してくれました。産後4か月以内の母親を対象としたケア事業、生後6か月前後の乳児がいる全ての家庭を対象とした保健師や管理栄養士による保健指導・離乳食相談などの育児相談会も新たに実施。引き続き、チルドレンファーストでまちづくりを推進していきます。

「千鳥苑」現施設での指定管理を継続へ

社会福祉センターの千鳥苑について、令和10（2028）年度まで現在の施設での指定管理を継続する方針を決定しました。少なくとも今後7年間は、今の場所が高齢者福祉などのサービスを提供します。ただし、昭和52年に建築された施設の老朽化が進んでおり、今後のあり方について市全体の公共施設の総量適正化の観点から検討していきます。

ます。未来への責任。私たちは人口減少に直面する中、どのように持続可能な社会をつくっていくのか。次の世代のことも考えなければなりません。公共施設の総量を現在と同じままにしておけば、維持管理にかかる市民1人当たりの負担は大きくなっていくため、総合管理計画で、今後40年間で総延べ床面積を現在の8割の規模にすることをめざしています。

一方、超高齢社会の中で、福祉サービスの提供は重要なため、千鳥苑で現在提供している機能は基本的に維持します。他の公共施設への移転、民間施設の賃借や民間移譲などの民間活力を使った手法なども含めて詳細に検討を進めます。

スウェーデン×古賀市でジェンダー平等

パパたちの育児風景を集めた写真展を5月に開催しました。スウェーデン大使館と連携し、回国と古賀市のお父さんたちが子育てに励む日常を切り取った



写真を展示。古賀市に立地する西部技研の隈扶三郎社長が同国の名誉領事であるご縁から実現しました。東京の大使館からマイケル・ジェイコブ参事官にも来場していただき、男性の育児参加について意見交換。これからもジェンダー平等を推進していきます。

古賀西校区の松林清掃に参加！

古賀西小学校の校区は玄界灘に面しており、松原が魅力。素晴らしい景観を維持できているのは地元の日々のご尽力のおかげです。6月5日は古賀北区、日吉台区、鹿野区の皆さんと一緒に松葉かき、袋詰め、リヤカーで運搬。ありがとうございました！



田辺一城(たなべ・かずき)

1980(昭和55)年5月16日生まれ
暁の星幼稚園、花鶴小学校、古賀中学校、福岡高校、慶應義塾大学法学部法律学科卒/2003年、毎日新聞に入社し、福井支局、大阪本社社会部/2011年から福岡県議会議員を2期務め、2018年12月に古賀市長に就任/妻と高校1年の長男、小学6年の長女/好きな音楽家はサザンオールスターズと椎名林檎、作家は夏目漱石と平野啓一郎、漫画家は手塚治虫